

岐阜城

みんなで・じもと・じまん

織田信長、入城450年。



金華山と長良川。金華山の名前の由来は、5月上旬に山域全体にツブライの黄色い花が咲き、それが黄金色に見えるからです。

「岐阜」の名付け親。地元の人はみんなが知っている岐阜城。子どもの頃、遠足で行ったという方もいらっしゃるんじゃないでしょうか。ところが、岐阜城は知っていても、ここが織田信長ゆかりの城であることは、意外と知られていません。斎藤道三の居城でしたが、難攻不落と言われた城を織田信長が攻略し、この地方一帯を平定。さらに、「井の口」と呼ばれていた地名を「岐阜」に、「稲葉山城」を「岐阜城」と改称したのも、信長の功績でありました。「美濃を制すものは天下を制す」と言われ、この頃から信長は、「天下布武」の朱印を用いるようになり、本格的に天下統一を目指します。城下町の興隆にも力を注ぎ、楽市楽座の保護など、当時としては斬新な政策により岐阜城下は大変な賑わいだったそうです。



岐阜城

2017年は、信長が入城してから450にあたる年。これを機に、岐阜城を観光資源や町のシンボルとして見直すムーブメントがスタートしています。名立たる山々や濃尾平野の雄大な川の流が見渡せる展望台からの眺望に加え、金華山一帯が「岐阜城跡」として国史跡に指定されるほどの歴史好きにも価値あるポイント。昔ながらの典型的な観光地として地元民から見過ごされがちな岐阜城の良さを、今こそ再発見する必要があります。



織田信長座像



エコツー

42

エコムつうしん 42号 -5月号-

エコツーリズム

- ここが知りたい！エコムちゃん
- SATOYAMA EXPERIENCE 株式会社美ら地球(ちゅらぼし)
- みんなで・じもと・じまん「岐阜城」



「エコツー」は、地域から地球まで、持続可能な社会を考えるコミュニティペーパーです。

エコムちゃん

エコツー 42

平成27年5月発行

発行：エコムカフムラ株式会社 岐阜県安八郡輪之内町里85番地の3

TEL 0584-68-2033 (代)

制作：Ishii Design TEL&FAX：042-973-4004 mail@ishii-design.info

※表紙のイラストは「廃材」を使用しています。今月は「廃プラスチック」で「スズラン」をつくりました。

《再生紙を使用》



ここが知りたい!
エコムちゃん

学ぶ

遊ぶ

働く



SATOYAMA EXPERIENCE

— 株式会社 美ら地球(ちゅらぼし) —

エコツーリズム

旅に出るのは何のため?
おいしいものを食べたり、美しい景色を眺めたり、
珍しいものや非日常に出会うため。
それとも、自分探し。

エコツーリズムは、ただ自然に触れ合うネイチャーツアーではなく、
自然や伝統文化を保護する意味合いが含まれる。

お花見や紅葉狩り、温泉めぐりは、
自然に親しむ意味では同じだけれど・・・

環境に負荷がかからないように過ごしながら、
自然を観察したり体験しながらそのしくみを学んだり、
生物や自然環境を保護する活動に参加したり、
昔の貴重な文化や遺跡を知り、それを大切に守ったりする。

そんなところが少し違っていて、
地球環境や社会のためにもなる旅のカタチなんだね。

Ecotourism



エコツーリズム大賞

エコツーリズムがめざすのは、次の三つ。
地域の自然と文化を知り、慈しむ。
元気な地域が自然を守る。
自然と文化を受け継いでいく。

エコツーリズム大賞は、この精神にかなった活動を実施している地域や事業者を表彰し、アピールするもの。軽井沢で総合的なエコツーリズムを展開した株式会社ピッキオが、第1回の
大賞を受賞しました。



飛騨地方の日常、里山文化を世界中から集まるゲストに紹介しているこの会社は、飛騨市古川町にあるよ。世界中を旅したという創立者は、日本の良さを振り返り、求めていたものが「古き良き、日本の生活」だということに気付いたのね。その思いを胸に起業し、上記のサイトを立ち上げ、世界に日本の誇れるところを発信しながらエコツアーを企画しているんだ。

その成果が認められ、昨年12月、
第10回エコツーリズム大賞優秀賞を受賞したよ。



サイクリングは人気のツアー。
スローな旅を満喫します。



飛騨の美しい自然は、外国人にも人気です。



古民家をオフィスとして貸し出す活動も行っています。



観光化されていない飛騨古川。地元目線で案内します。



飛騨出身の講師による講演会も企画します。

メッセージ

私たちが考える飛騨の暮らしは、町を一步離れた里山にこそ、存在します。観光地ばかりに人が集まると、土産物屋やカフェが乱立するというようなことが起こりがちです。新しいものをつくるのではなく、旅人に今そこにある観光資源を知ってもらうことが、新しい飛騨の旅のスタイル。できるだけ地域に負荷をかけず、伝統ある飛騨のクオリティを維持していく・・・持続可能なまちづくりを推進しています。